

第7回Harima Blue-One(HB-1) 1型糖尿病患者友の会 会報



<実施日>

平成30年1月30日(土曜日)13時30分～16時40分

<対象> 1型糖尿病患者とその家族 約40名

<会場> 姫路・西はりま地場産業センター 9階

<実施内容>

- ・高砂市民病院
- ・参加者500円(家族は不要・年間500円)
- ・永田正男院長より膵臓移植についての講義
- ・グループフリーディスカッション
- ・情報提供

<会費>



永田正男院長による講義

膵臓移植の現状について(膵臓移植の年間数や、レシピエントの条件など)現在わかっている事を分りやすく写真を用いて講義して下さいました。また移植後の免疫抑制剤の内服や、バイオ(豚)人工膵島のお話しなど、今まで知らなかったことなどを詳しく知る機会となりました。

次回患者会は、食事会を兼ねて、カーボカウントをみんなでやってみようという企画を計画中です。各自、血糖測定器・インスリン注射を持参するようにお願いします。



グループディスカッション



- ①インスリンポンプ
- ②恋愛・結婚・妊娠・出産
- ③趣味・スポーツ
- ④フリー
- ⑤家族・友人
- ⑥カーボカウント

テーマ別にグループに分かれ、自由に話し合いを行いました。今回は新規参加者・ご家族も多く、あっという間に時間が過ぎたのではないのでしょうか。日頃の悩みや想いを共有出来たり、疑問が解決出来、「次回も参加します」という嬉しいお声をきくことが出来ました。

グループディスカッションで出た意見



<カーボカウント>

- ・低血糖に対する各自の工夫などが話し合われた。
- ・今回ドイツから出ているブドウ糖の飴を持参してくれている人がおり、参考になった。

<ポンプ>

- ・ポンプの良い所、悪い所をみんなで話し合った。また良い所、悪い所は共にあり、自分自身がそこで何を求めていくか考えていくかが必要。

<フリー>

- ・病歴の長い人、短い人と様々な患者のグループ編成であった。
- ・家族として、患者をどのようにフォローしたらいいかという疑問があったが、患者側からの意見としては、「大丈夫？」と頻回に言われるより、本当にしんどい時に優しく声を掛けてあげることが大切であるという意見が出た。

<フリー>

- ・10代に発症して成人となった息子の血糖管理が難しく、息子自身は気にしていないところが親として困っている。意見としては本人の自覚が大切であるため、リブレなどの血糖が見える化の機能を上手に使い、血糖コントロールにつなげていけるといいのではという意見があった。
- ・外食時はトイレでインスリンを打っている為、小型化したインスリン注射があると、生活の幅が広がるという意見があり、患者の生の声ということで、製薬会社さんに意見として伝えた。

<フリー>

- ・職場で1型糖尿病であることを隠している人もいた。
- ・リブレ経験者も増えてきており、スポーツで汗をかいた場合など外れやすかったなどの経験談を聞くことが出来た。
- ・お菓子売り場に打っているラムネなどもブドウ糖分が90%入っているものなどがある。

<フリー>

- ・航空会社によって食事の準備があつたり、持ち運びに関する対応が違う。事前に自分自身が情報収集を行うことも大切であると思った。
- ・血糖測定器は熱さ・寒さに弱いことを知ったので取扱いに注意したい。



第9回Harima Blue-One(HB-1)
1型糖尿病患者友の会
平成31年2月2日(土) 予定です